

山形一便
山羽田

「複数便化は悲願」

自民県連など国交相に要望

羽田空港発着の地方路線維持に向けた国土交通省の



太田昭宏国交相(中央)に遠藤利明自民党県連会長が要望書を手渡した。国交省

政策コンテストに、県が日本航空などと共同提案したことを受け、自民党県連、公明党県本部と土田正剛東根、山本信治天童両市長は20日、太田昭宏国交相に山形―羽田便の複数便化実現を要望した。

自民党県連の遠藤利明会長ら国會議員と野川政文幹事長、公明党県本部の菊池文昭代表が両市長と共に国交省を訪問。山形―羽田便に関して▽東北のインバウンド(海外からの旅行)観光の復興▽災害時の代替機能の維持―などに役立つとする要望書を

渡した。

懇談後、遠藤氏は「大臣は県の提案、意義については熟知している」と話し、山形空港利用拡大推進協議会副会長の土田市長は「複数便化は悲願。われわれの取り組み、熱意にも理解をもらった」と述べた。

コンテストで地方空港に新たに配分される3枠は今月中に決まる見通し。応募したのは全国4空港の地方自治体など。ほかの鳥取、石見(島根)、佐賀の各空港はいずれも全日空と連携。また、東日本は本県のみとなっている。